

令和8年度入学者選抜試験問題（総合型選抜Ⅰ）  
（地域学部地域学科国際地域文化コース）  
「課題論文」出題意図

今年度は、『「その日暮らし」の人類学——もう一つの資本主義経済』（小川さやか著、光文社、2016年）第1章を課題論文の資料として用意した。

著者は、アマゾンの狩猟採集民ピダハンと生活を共にした経験のあるダニエル・L・エヴェレットの著書を引用しながら、ピダハンを含む狩猟採集民の文化の主な特徴、すなわち乏しい物質文化、貯蓄や技術的發展に対する無関心などは珍しいものではなく、富の蓄積や財の扱いに対する特有の態度とも深く関係し、彼らは必ずしも不幸で貧しいわけではないと考察している。

問1では、エヴェレットがピダハンと生活を共にした経験から導き出した「直接体験の原則」とは何か、簡潔に要約できるかを問うた。

問2では、狩猟採集民の生き方を調査した人類学者が、所有とその影響に着目したことをふまえ、受験生が所有のもたらす影響について自らの視点で考察する力があるかを問うた。

評価の観点は、①資料の要点を読み解く力、②内容の論理的・一貫性や説得力、③文章表現の技法等である。以上の観点から、「知識・技能」「思考力・判断力」「表現力」「創造性」を総合的に判断する。